家庭学習プリント　国語４年　①

名前　解答例

教科書ｐ２８～
「ぴったりの言葉、
見つけよう１」

めあて　心が動いたときのことを思い出し、そのときの思い出を書くためのじゅんびをしよう。

☆　教科書２９ページの例文を読んで、どんな文章を書くのかをつかみましょう。

☆　これまでの体験の中から、次のような気持ちになったできごとを思い出してみよう。

例：家族で海に旅行に行ったこと　など

※　とくに思い当たることがないところには、無理に書かなくてかまいません。

○　楽しかったこと

全て略

○　うれしかったこと

○　悲しかったこと

○　その他、心にのこっていること

☆　その中から、文章に書きたいことを一つえらんで、上の○に色をぬりましょう。

☆　えらんだ体験の中で、特に強く心にのこっている場面と、その時の気持ちを書き出しましょう。

○　特に心に強くのこっている場面

例：みんなで海岸でバーベキューをしたこと、海でボートに乗って沖へ出たこと、など

○　その時の気持ち

例：肉がとってもおいしかった、潮風がとても気持ちよかった　など

家庭学習プリント　国語４年　②

名前　解答例

教科書ｐ２８～
「ぴったりの言葉、
見つけよう２」

めあて　心が動いたときのことを思い出し、そのときの気持ちに合った表現を使って書き表そう。

☆　学習プリント①の最後に書いた気持ちについて、「気持ちを直せつ表す言葉」を使わずに表すとどう表せるかを考えてみましょう。教科書２９ページの例文を参考に考えましょう。

【気持ちを直せつ表す言葉を使わずに表す方法の例】
○　オノマトペ（ぎ音語、ぎ態語）を使う　（例　心がうきうきした、心ぞうがどくと鳴った　など）
○　体のじょうたいや、行動の様子で表す　（例　むねがはずんだ、肩を落とした　など）
○　比ゆ（たとえ）を使う　（例　まるで空を飛んでいるような気分、おいしくて舌がとろけるよう　など）

○　自分が伝えたい気持ちを、心にぴったりした表現に言いかえてみましょう。

全て略

～（気持ち）～て、～（言いかえ）～だった。というように書いてみるとよいですよ。

☆　考えた表現を使って、文章を書きましょう。

題

家庭学習プリント　国語４年　③

名前　解答例

教科書ｐ３０～
「漢字の広場①
漢字の部首　１」

めあて　部首のはたらきについて知りましょう。

☆　次の漢字の共通している部分を赤でかこみ、何に関係のある漢字か（　　）に書きましょう。

○　星　晴　明　（　日（太陽）や光　）

○　柱　植　根　（　木や植物　）

☆　漢字のなかま分けの仕方について、教科書３０ページを見て、（　　）に当てはまる言葉を書きましょう。

漢字を主に（意味　　）のうえでなかま分けするときに、目印とする部分を（部首　　）といいます。ふつう、（へん　　）、（つくり　　）、（かんむり　　）、（あし　　）などの部分が、部首として用いられています。

部首と漢字の意味には、深いつながりがあります。

☆　□の中の漢字を手がかりにして、次の部首の意味を考えて、（　　）に書きましょう。
また、教科書の巻末の『漢字を学ぼう』などを使って、同じ部首をもつ漢字を三つ探しましょう。

人　ひと　にんべん　作　体　億　（　人、人の行動　）に関するもの
同じ部首をもつ漢字【　他　代　住　など　】

水　みず　さんずい　波　浴　氷　（　水　）に関するもの
同じ部首をもつ漢字【　湯　注　池　など　】

力　ちから　加　動　努　（　力を入れること、仕事　）に関するもの
同じ部首をもつ漢字【　男　助　勉　など　】

家庭学習プリント　国語４年　④

名前　解答例

教科書ｐ３０～
「漢字の広場①
漢字の部首　２」

めあて　漢字を見て、部首が何かを考えたり、同じ部首の漢字を集めたりしましょう。

☆　教科書３１ページを見て、次の漢字の部首の名前を答えましょう。また、教科書にある漢字を部首ごとに分けてみましょう。

部首	部首の名前	その部首をもつ漢字	部首	部首の名前	その部首をもつ漢字
广	まだれ	庭　店	刀	かたな	切　分
艹	くさかんむり	芽　英	口	くにがまえ	国　園
攵	ぼくにょう	教　数	女	おんな おんなへん	妹　委
雨	あめ あめかんむり	雪　雲	宀	うかんむり	完　富
頁	おおがい	顔　頭	山	やま やまへん	岩　島

☆　巻末『漢字を学ぼう』を使って、同じ部首の漢字を集めましょう。（二つ以上見つけよう。）

部首	部首の名前	その部首をもつ漢字
言	いう　ごんべん	語　話　など
糸	いと　いとへん	組　級　など
手	て　てへん	打　投　など
竹	たけ　たけかんむり	笛　答　など
心	こころ	感　思　など
辶	しんにょう	近　遠　など

家庭学習プリント　国語４年　⑤

名前　解答例

教科書ｐ３２
「三年生で学んだ
漢字①」

めあて　三年生で学んだ漢字を正しく使って、
絵に表されていることがらを、短い文で書きましょう。

☆　教科書にある漢字の言葉を、声に出して読みましょう。
読み方や、意味が分からない字は、おうちの人に聞いたり、辞書を引いたりして調べましょう。

☆　絵の中の言葉や、―線の漢字を使って、町の様子を文章で表しましょう。
一つの文の中に、二つ以上の言葉を使えるといいですね。

※　文を作るときには、必ず『主語』を入れて書きましょう。

主語とは、その動作をする人やものを表す言葉です。
多くの場合は、「〇〇が」や「〇〇は」といった形で書かれます。
（例　風が吹く。　あの花は美しい。）

○　使う言葉

（例）　港　汽笛

その言葉を使って、文を書きましょう。

（例）　港にとまっている船が、汽笛を鳴らしています。

○　使う言葉

（例）　旅人　向かい風

その言葉を使って、文を書きましょう。

（例）　旅人が、強い向かい風にたえながら歩いています。

☆　書いた文章を、声に出して読んで確かめましょう。

家庭学習プリント　国語４年　⑥

名前　解答例

教科書 p３４～
「ぞうの重さを量る」

☆　教科書３４・３５ページ「ぞうの重さを量る」を声に出して２回読みましょう。

めあて　実験の結果（けっか）と結論（けつろん）のつながりに気をつけて読みましょう。

☆　本文三行目、王様が思った、『同じこと』とは、どんなことですか。書きましょう。

ぞうの重さがどれくらいなのかということ。
（いったい何キログラムなのだろうか　など、ぞうの重さに対する疑問があれば可）

☆　ぞうの重さを量ることができなかった理由は何ですか。書きましょう。

重さを量る道具が、さおばかりやてんびんばかりで、ぞうが大きすぎてのせることができなかったから。（量るための適切な道具がなかったことがあれば可）

☆　順序を表す言葉に気を付けて、曹沖（そうちゅう）が考えた、ぞうの重さを量る方法をまとめましょう。

手順①	手順②	手順③
まず、ぞうを大きな船に乗せる。 重さで しずんだところの水のあとに印をつける。	次に、ぞうをおろして、ぞうの代わりに石をつんでいく。 ぞうが 乗った時につけた印まで船が下がったら、石をつむのをやめる。	最後に、船につんだ石の重さを一つ一つ量っていく。 石の重さを合計すると、ぞうの重さが分かる。